

令和 2 年度第 2 回秩父市総合教育会議議事録

期 日	令和 2 年 11 月 2 日（月曜日）
時間・場所	15 時～16 時 30 分・本庁舎 4 階第 1・第 2 委員会室
出席者	<p>久喜市長、倉澤教育長、増田教育委員、高野教育委員、松本教育委員、山中教育委員</p> <p>市長室長、市長室次長兼地域政策課長、市長室参与、地域政策課主幹 2 人</p> <p>教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長 2 人、教育総務課長、学校教育課長、教育研究所長</p> <p>傍聴者 1 人</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナについて、市内の感染者は経路を特定できており、大きな広がりになっていない。ヨーロッパは大変な状況だ。 ・市内小学校の修学旅行について、GoTo トラベルキャンペーンを活用できることとなり、費用を低減することができた。 ・コロナのゲームチェンジャーはワクチンしかないと思う。少なくともあと半年は続くだろう。三密を避け、新しい生活様式を実践していく。 ・今回は、秩父市教育大綱の見直しについて、パブリックコメントの実施に向けた草案をまとめたい。 ・また、現在、進めている GIGA スクール構想の現況と今後について報告し、リモート学習等について委員の皆様からの意見を伺いたい。 <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 教育や GIGA スクール構想について、忌憚のない意見をいただきたい。 <p>（傍聴者 入室）</p> <p>○議事</p> <p>（1）秩父市教育大綱について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 について事務局（地域政策課）から説明。 ・これまでの間、素案、修正案の作成などにより見直しを進めてきた。今回、草案として 2 案を作成した。本日の協議を踏まえ、パブコメに掛ける草案として確定したい。（事務局） ・委員の皆様の見解を伺いたい。（市長） ・意見を取り入れてもらい、すっきりした内容になった。草案 2 の方がわかりやすい。これからの 5 年間は、これまでも増したスピードで

変化していくと思う。ICT 活用のための教育は重要。こどもたちは「未来からの留学生」だ。一点のみ気になったのが、「超スマート社会」という言葉は「Society5.0」に変えた方が良いのではないか。(高野教育委員)

- ・基本理念について、社会が大きく変わる中で、「生き抜く力を身に付ける」「秩父ならではの教育」という部分は、私たちの思いが入っていると感じた。基本方針についても、簡略化してわかりやすくなったと感じる。私も草案2の方が良いと思う。(山中教育委員)
- ・「不易と流行」という言葉がある。ややもすると時勢に乗って冷静な判断ができなくなることがある。「不易」の部分をしっかりと達成していくことが、とても大切だと思っている。ICTも流行の一つ。教育は結果がすぐには出ないものだ。色々な情報を取り入れていく必要がある。「秩父ならではの」という部分に少し引っかかる印象を持つ。安心安全を別項目にしたのは良いと思う。(松本教育委員)
- ・思いを反映してくれていると感じる。「社会の変化に対応して生き抜く力を身に付ける」を冒頭に持ってきたのは良い。「安心安全」については、組織としての対策の色を強く感じるが、児童生徒個人の危機対応力の強化も大切だ。(増田教育委員)
- ・「Society5.0」についての取扱いをどうするか。(市長)
- ・大綱の策定に当たり斟酌することとなっている国の計画「第3期教育振興基本計画」においては、「超スマート社会(Society5.0)」という表記がされている。(事務局)
- ・そのように並記する形で良いと思う。(市長)
- ・「秩父ならではの教育」が何を指すのかが不明確だと思う。「文化財の保護保存と継承」の部分につながるのだと思うが。(教育長)
- ・「…生き抜く力を身に付ける」を「…生き抜く力を身に付け、」としてはどうか。(市長)
- ・明記してはいないが、基本理念の主語は「市」である。「…を身に付ける…教育を推進…」とするのが自然だと考えている。(事務局)
- ・「ならではの」を抜き、「秩父の教育」とする形に改めたい。「読み書き算盤」について、実際にソロバンをするものと誤解されないかと少し思ったがどうか。(市長)
- ・国では「読み書き・計算」という言葉を使っているようだ。(教育長)
- ・そのように改めたい。「草案(案)2」をベースに、3か所を修正した形を草案として確定したい。事務局から確認願いたい。(市長)
- ・(協議で出た修正点を反映した内容を朗読) ①基本理念の「秩父ならではの教育」を「秩父の教育」に、②「読み書き算盤」を「読み書き・計算」に、③「超スマート社会」を「超スマート社会(Society5.0)」

に、以上3点の修正で良いか。(事務局)

⇒市長、教育長、各委員ともに賛成。

- ・それでは、今回修正した案でパブコメを進めることとしたい。(市長)

(2) 令和2年度 教育関係の主要事業について

- ・資料2について教育委員会事務局から説明。写真等を用いた追加資料(パワーポイント資料)により補足説明。
- ・まさに Society5.0 に当たる部分だ。私も経営者として ICT 活用を進めているが、端末の管理が大変。1人1台として約5,000台の端末のランニングコストやケアなど、システム化していかないと大変だと思う。そのためにも、指導主事の強化やハードのケア体制の充実をお願いしたい。(増田教育委員)
- ・コロナ禍の中で ICT を活用した発信が多々あった。有効活用を考えていかなければならないと思う。(松本教育委員)
- ・綿密な計画が進んでいると改めて感じた。コロナ禍の前までは、多くの保護者が、ゲームにのめり込むんじゃないか、セキュリティ的に心配だとか等、デジタル的なものに漠然とした恐怖心があったと思う。コロナの影響で休校になったりして大きく変わった。パソコン活用の意義の大きさを改めて感じている。一方、保護者の中には、学習は人の五感をフルに活用していくべきという考え方を持つ方もいる。パソコンの利点を生かしつつ、対面授業の大切さも重要視したい。学校の先生はコロナ対応が大変だと思う。GIGA スクールの導入も大きな負担だろう。専門的技術を持った指導員等のフォローをお願いしたい。(山中教育委員)
- ・研修体制やハード整備が整いつつあり素晴らしいと思う。現場の先生方に聞いてみたが、若い先生は ICT の活用に抵抗ない。目からも耳からも入るので便利だと、フル活用している様子だった。子供たちも ICT に抵抗はない。GIGA スクールに抵抗なく入っていけるのではないか。中学校の合唱祭に伺ったが、コロナ対策として、学年ごとに会場と各教室とで分かれて見るなど、ICT を活用できていた。抵抗があるのは、親とその上の世代かもしれない。教師が使いこなせないために導入したものを活用できないとなると、宝の持ち腐れになってしまう。20年前、私が現場にいた時にパソコンが入ってきたころも、「辞めるか買うか」という思いで、環境の変化に対応した。慣れば出来る。新しいことは慣れるまでが大変。5,000台を有効に活用するため、先生が抵抗なく使いこなせるようにするためには、質問等にフォロー対応してくれる人が必要。各校に配置されていれば最善だが、市教委や近隣の

学校に誰か支援してくれる人材がいるような体制整備をお願いしたい。教師に求められるものはどんどん変わっていくが、教師を目指す人は前向きな人が多いと考えている。「不易」の大切さについては私も同感だ。情報モラルも大事で、並行して教えていくべきだ。(高野教育委員)

- 教育委員会として、5,000 台の端末をどう活用するかを想定して準備を進めている。全教職員を対象に研修を実施する。各校から誰かが代表で受けるのではなく、全員が1回は受けるような形を想定している。また、市内3校に授業支援アプリケーション (MetaMoji) を導入し、少なくとも導入校の職員は全員が今年度中に使えるようにする予定である。さらに、「夜勉」についても ZOOM での実施を試行する。ZOOM は既に全校でやっている。リソースを活用し、徹底的に研修を実施して、宝の持ち腐れになるようなことのないよう取り組んでいく。山中委員ご指摘のとおり、パソコンは万能でなく、対面だからこそ学ぶものも沢山ある。GIGA スクールには色々な思いを持っている方が多いが、取組を進めていく中で、方向性を一致させていく。(教育長)
- 私はパソコンは鉛筆やマックと同じようなもの (ツールの一つ) だと思っている。山中委員の発言に共感した。対面も大事。皆で汗をかいて、涙して、喜んで、ということは大事だ。対面教育に勝るものではなく、目を見て伝える教育が大事だ。コロナもいずれは収束すると考えるが、その時でも PC は使うことになるだろう。補助教材として有用だ。英語のネイティブ発音などは PC が勝る。「読み書き算盤」というが、時代がどうであれ、書くことは大事だ。私の信念として、「書くこと」の教育は重視していきたい。(市長)

○その他

- 保護者から、近年のランドセルの重さを心配する声が出ている。健康被害も心配。GIGA スクール構想の進展がカバンの重さの解消につながればと期待している。(山中教育委員)
- 機種選定に当たっても配慮したい。(市長)

(傍聴者 退室)

○閉会

以上